

R6年能登半島地震

北陸学院大学の 取り組み

Vol.01

2024.1.2 - 3.31

北陸学院大学では地震発生直後から、支援物資の呼びかけを開始、教員が奥能登被災地の一次避難所に食品、水、衣類、毛布などを届けてきました。2月に入ってから、大学生、高校シャローム部生徒が中心となり、2次避難所での炊き出し支援、交流会＆相談会、支援物拠点での傾聴活動、足湯ボランティアなどの活動を金沢市内の避難場所を中心に取り組みました。道路の復旧が進んだこと、宿泊拠点が確保できたことなどから、2月後半以降は輪島市、能登町、珠洲市の被災地域での活動を進めています。これまで延べ90人の大学生、生徒、教員が活動しました。

1 2次避難所の住民生活支援

支援物資の呼びかけ、炊き出し、交流会＆相談会の開催、傾聴活動（カフェ）、足湯ボランティアなどを行いました。



2 被災した住宅の片付け等

金沢市内の2次避難先で生活する住民の一時帰還を兼ねたボランティアバスを運行、住民立ち会いのもと、居宅内や居宅周辺の片付けを行いました。



3 子ども支援活動

子どもの支援活動を行う特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンさんと連携し、輪島市門前町の小学校避難所で活動しました。



体育館で思いっきり体を動かしたり、ゲームをしたり、それぞれがやりたいことを楽しみつつ、大学生や大人が子どもの話を聴き、想いを受け止めることで、ありのままの自分を出せる場所になっているのがチャイルド・フレンドリー・スペース「みんなで遊ぼう！」です。4月以降も活動を継続し、子どもが安心して過ごし気分転換できる場所にしたいと思いました。

南結菜（子ども教育学科4年）



地震から2か月が経過したにも関わらず、報道で見る以上の被害にショックを受けました。そんな中でも私たちボランティアを温かく迎えてくれた住民の皆さんに感謝しています。住民の皆さんの復興に貢献できるのなら、微力かもしれませんがこれからも活動に参加したいと思います。

北野倫圭（社会学科2年）

4 地域コミュニティの再生に向けた支援活動

輪島市門前町道下地区で住民が手がけたバラ園の修復作業を開始しました。地震発生以前、このバラ園は地域住民の大切な場でした。地域の復興を支える重要な場としての役割を担うバラ園を住民と一緒に作っていきます。



バラ園を地域住民が心を通わせ元気になる場にしたい。Oさんご夫妻の願いに共感し、その実現に向けお手伝いができたことを光栄に思いました。かつてはここでコンサートが行われていたと伺いました。たくさんの人が音色を奏でる機会が近い将来実現できたら本当に素敵だと思います。

市谷美桜（子ども教育学科3年）

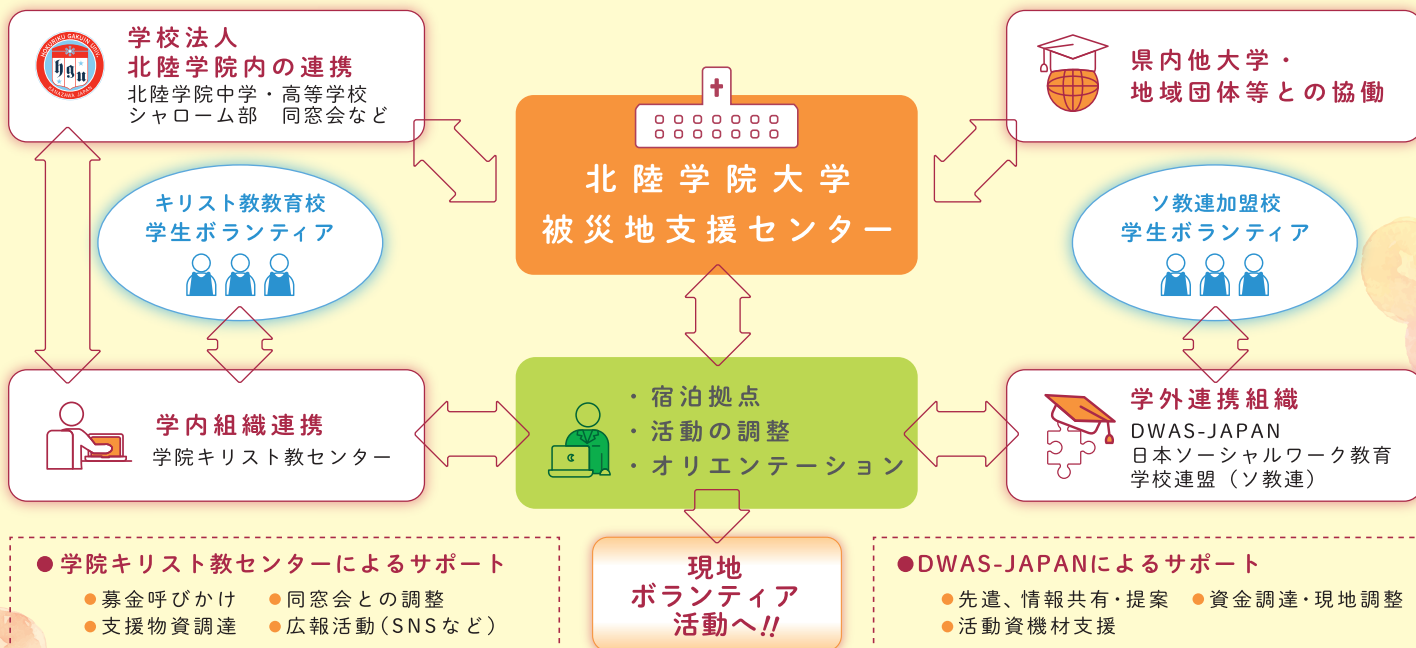


被災県の大学として 全国の大学生と 被災地を繋ぐハブ機能を担う

全国の大学生と能登を繋ぐ機能を担うため、北陸学院大学被災地支援センターを立ち上げました。今後は同センターを中心に、学生ボランティアの募集、移動手段の確保、宿泊調整などを行い、継続して現地ニーズに応じる体制づくりを進めていきます。また、学内の施設の一部を支援物資保管拠点及び一時休息拠点として開放、県外大学生らの経済的負担の軽減及び被災地への移動をサポートします。



北陸学院大学被災地支援モデル



災害VC運営支援 or 生活ニーズ支援

ソーシャルワーク団体等の後方支援

※在宅被災者のアウトリーチ

- ・地域へのアウトリーチ
- ・仮設住宅生活支援
その他
- ・1次避難所・2次避難所の生活支援

災害ボランティアセンターの専門職後方支援

※社会福祉協議会の社会福祉士サポート

- ・災害VCの運営支援
- ・受付、オリ、資機材、送出など
・情報集約
・情報整理 → ニーズ票へ

北陸学院大学の災害ボランティアに係るこれまでの活動及び被災地支援センターの活動は、公益社団法人 Civic Force、日本財団、赤い羽根共同募金、公益財団法人スポーツ安全協会からの活動助成金、日本ソーシャルワーク教育学校連盟からの移動・運搬車両（ハイエース1台、軽トラ4台）供与、KDDIによる通信機器(STALINK)供与、サントリー・ホールディングス、県内・県外団体、同窓会、教職員からのご寄付及び支援物資提供により支えられています。



主な事業内容

コン
ポ
ネ
ー
ト
1

復旧・復興期を支える、
若者人材が滞在できる
拠点づくり

被災地域と連携して、ボランティアの受け入れ拠点と、現地での活動マッチングを行うネットワークづくりを行う。

コン
ポ
ネ
ー
ト
2

若者人材の
切れ目ない派遣を行う
体制整備

地域団体や現地の大学、他県大学生などと連携し、お茶会サロンや足湯ボランティアを実施する。同時に、専門家による制度の説明等も加え被災者の安心につながる場づくりを実施。

コン
ポ
ネ
ー
ト
3

仮設住宅、
二次避難先での
サロン活動の開催

地域の復興のためのまちづくりなどをおこなっていくための勉強会や相談会を実施する。時期をみながら、過去の被災地の事例提供などを通して、地域の復興のあり方を模索するための集まりを開催。



北陸学院大学 地域教育開発センター

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地
(Mail) reded@hokurikugakuin.ac.jp

(TEL) 076-280-3856
(URL) www.hokurikugakuin.ac.jp/univ/reded